

えなの

えなの  
挑戦

みんなであつくる！

認知症まちづくりプロジェクト

～らん とも RUN 伴から生まれる地域のつながり～

認知症になっても  
安心して暮らせるまちって  
誰がつくるんだろう

平成28年11月1日に、認知症フレンドシップクラブ恵那事務局は  
立ち上がりました。

認知症フレンドシップクラブの活動は、RUN 伴だけにとどまりません。  
認知症の人のやりたい事を応援する！『サポ友』、『旅サポ』というものや  
フォーラム・ワークショップの開催も行っています。

恵那市でも、  
「認知症になっても今までと変わらず馴染みのお店に出かけて仲間と一緒に笑って過ごしたい！」  
「たまにはお酒だつて飲みに行きたい！」「旅行にだつて行きたい！」  
そう思っている人もみえるはず。まちの人たちがパートナーとして、認知症の人がやりたい事、  
旅のサポートをするなどして、あきらめていたことに再挑戦できる場を展開したいと考えています。  
これから市内で共感してくれるひと、喫茶店やレストラン、居酒屋などをつないで  
一緒にアイデアを形にしていきたいと考えています。

誰もがワクワクする気持ちを抱いて参加してもらえそうなことをみんなでデザインし、  
「まちのみんな」がジブンゴトとして一緒に話し合えたらステキだと思いませんか。

こうやって人と人をつなぐことで、その人の可能性を広げていくことができ、  
また地域の人たちのやさしい思いを育てることに挑戦していきたい  
と思います。

らん とも ぶらす  
発行：えなRUN 伴+ (PLUS) 実行委員会

編集：認知症フレンドシップクラブ恵那事務局

発行日 2017年7月31日

協力：株式会社 ゼロワンカンパニー



2016





「らん とも」  
「RUN 伴」との出会いのきっかけ、皆さんはご存知ですか

らん とも  
RUN 伴は、「〇〇のはじめの一步」

一般の人には少しハードルの高い認知症の課題を、認知症の人や家族、支援者だけでなく、商店街や企業、行政、NPO、子ども、一般住民などの皆さんが、同じタスキをつなぐ体験を通じて、様々な人同士が出会い、認知症の人も暮らしやすい地域について考え、つながりから様々なはじめの一步(アクション)が生まれる...そんなことを願って、実施するまちづくりの活動(ランニングイベント)です。



恵那市がはじめてRUN TOMO ROW(RUN 伴)を開催したのは、平成26年10月5日です。このとき、静岡県富士宮市から夏目佳明さんがふるさとの上矢作町に帰り、雨の降る中、仲間と共に走り抜けました。

平成25年12月に恵那市は「認知症と共に歩む」という講演会を企画しました。認知症と共に歩む当事者である佐野光孝さんと妻の明美さんを富士宮市から招き、普段の生活や周囲との繋がりについて講演いただきました。

この講演会を開催するにあたって、企画立案者であった私は、この年の10月に富士宮市を訪れて、佐野夫妻、小泉キヤラバン隊(キヤラバン・メイト)、富士宮市役所の稲垣康次さん、藤田博美さんからお話を伺っています。

この講演会を一過性で終わらせるのではなく、実際の富士宮市の様子を知り、今後の恵那市の認知症支援施策の為に大切な視点を発見するためでありました。私が富士宮市を訪れたこの日は、RUN 伴2013の静岡地区の開催日でもあり、はじめて富士宮市が参加する日でもあったのです。

事前の富士宮市役所職員の藤田さんとの電話でのやり取りでは、当初私は佐野光孝さんと一緒に走る予定でした。何度かやり取りをする中で、藤田さんからこんな提案を受けました。

「富士宮市内のグループホームで生活している方で恵那市上矢作町出身者がみえ、『恵那の人たちと一緒に走りたい』と言ってみえる。この方(夏目佳明さん)と一緒に走っていただけませんか」

「ここが、私たちが夏目さんと出会い、夏目さんがふるさとに帰るきっかけです。」

夏目さんは、就職を機に上矢作町から富士宮市に生活の場を移していました。認知症を発症されてから病院や富士宮市内のグループホームで生活されていました。長くふるさとに帰る機会もなく、体調を崩すこともありました。RUN 伴をきっかけに、目標を立てて前に進んでこられています。

この時、千葉県で暮らす夏目さんの息子さんも富士宮市に駆けつけ、一緒に走り、「息子さんと一緒に走る」という、まずはじめの目標を達成しました。その後、私たちとふるさとの写真を見ながら食事会をしました。夏目さんはこの時の走りから「ふるさとの上矢作でも走りたい」と次の目標を持ちました。

この夏目さんの想いを叶えることも、また富士宮市で見た、佐野夫妻をはじめとした当事者をまち全体で応援しようとする雰囲気も恵那でも実現したいと思う気持ちが恵那ではじめてRUN 伴を開催したきっかけとなっています。

実は、初回開催時に上矢作チームの皆さんが、夏目さんに喜んでもらいたい、走るチカラを与えたいと、夏目さんの同級生探しに奔走されています。



2014RUN 伴 上矢作ルートの様子

私は、この「あの人を応援したい」という一人ひとりの想いやイメージが地域を動かす上で大切なことなのだ気づきました。2016年開催のスローガンの中の「一人ひとりの物語りが地域を動かす」はこのように想いがあり実行委員会で決めたものです。その物語りをさらに、その地域で共有することができれば地域は変わっていくはずです。

夏目さんは、昨年の11月にさらに次の目標である、「息子さんの住む千葉に行く」ことを達成しています。

さて、あなたは2017年の開催に向けて、誰を応援したい!とイメージしましたか。

恵那市役所地域包括支援センター  
足立 哲也





## えなの「RUN伴」の軌跡

### 2014 ~ 2017 RUN 伴と報告会 & 認知症地域ネットワークフォーラム

恵那市を8ルートに分けて、毎年開催をしているえなRUN伴+ (PLUS)。各エリアでチームやコースなどを作り、また小イベントを開催したりしています。エリアの独自色を大切にしながら、最終的に恵那市役所を目指し、8ルートが集結する「えなRUN伴+ (PLUS)」。

開催までのプロセスの共有が私たちにとってすごく大切なこと。各エリアで、新たな住民や企業の方、趣味サークルなど新しい理解者の発掘。各エリアの地域課題の発信や共有。そして、報告会とフォーラムにより、恵那市全体の情報集約へとつなげ、恵那に住む私たちにできることはなんだろうか？ 私たちにできるまちづくりの実現へとつなげていく。それを目指し続けてきた3年間であり、これからもその実現のために目指していくためのものであります。



### 2014 RUN伴

2014.10.5開催

はじめての開催  
豪雨の中、参加者は走りぬぎました



恵那として初めてのRUN伴参加!!  
400名近い参加者数で、豪雨の中、名古屋までタスキをつないだ。  
RUN伴で生まれた専門職同士の強いつながりを、さらに報告会では3年後、恵那のまちにどのような風景が生まれているといいか、そのためにできることは？  
ワクワク感の中、創造を膨らませることができ、次年度へとステップした!!

### 2014.12.13 RUN伴2014大報告会

恵那市消防防災センター

【ゲスト】  
徳田雄人氏 (NPO 法人 認知症フレンドシップクラブ)



### 先

### 2015 えなRUN伴+ (PLUS)

2015.10.18開催

地域の人により参加しやすいように  
恵那独自のRUN伴+ (PLUS)として開催  
中津川市、瑞浪市も参加



恵那の特色を生かした、RUN伴を目指してPLUSで開催!! 昨年度を超える700名以上が参加。  
報告会では、奈良で実践されているまちづくりの具体的な取り組みを若野氏から聴き、その後対話を通じてRUN伴をイベントごとで終わらせてはいけない...。まちづくりにつなげていきたいと、熱い思いが込み上げてくる内容となった。

### 2016.3.19 えなRUN伴PLUS2015大報告会

武並コミュニティセンター

【ゲスト】  
若野達也氏 (一般社団法人 SPS ラボ 若年認知症サポーターセンターきずなや)  
徳田雄人氏 (NPO 法人 認知症フレンドシップクラブ)





えなの「RUN伴」の軌跡

沢山のお心づかい  
ありがとうございました。

- 協力店
- 松浦軒本舗 …… カステラ、栗きんとん
  - 松浦軒本店 …… お饅頭
  - 水半 …… 柿
  - かめや …… カステラ
  - 岩村醸造 …… ゆずジュース

思っていたより  
人も多くて  
みんな楽しそう  
でしたね



商店会会長  
松浦軒本舗の松浦さん

耕グループ くわのみ 小林 正道

●残された課題

RUN伴をきっかけに地域で出来たつながりを今後、どうやって発展させることができるのか、正直まだ分かりません。まだまだ地域が変わったとは言えない現状ですが、しかし、確実に前に進んでいると感じることもあります。

実は、今回関わった岩村エリアの実行委員メンバーが中心となって、岩村で認知症カフェが始まりました。このカフェは毎月一回開催し、地域の商店や診療所の医師、警察、学校など立場の違う人たちに一人ずつ声をかけ、参加者を増やしていく予定です。RUN伴は一年に一回の大火火。このつながりをより深く、持続的なものにするため、私たちは次のステップに進んでゆきます。



認知症になっても  
安心して暮らせる  
まちづくり



2016  
えなRUN伴  
+(PLUS)

2016.10.30開催

地元事業所を巻き込んで  
一歩前進した手応え

RUN伴から生まれた岩村地区のつながり

●歴史あるまちのつながり

恵那市の南部に位置する岩村町は八百年余りの歴史を持つ城下町として、情緒あふれる町並みや数多くの旧跡を有する観光地です。ここでも一人暮らしや高齢世帯のお年寄りは増えており、RUN伴をきっかけとして、地域のつながりをいかに醸成するかをテーマに考えています。

岩村地域でのイベント準備にあたり、まずは町内の福祉関係の事業所に声をかけ、岩村エリアの実行委員会を結成。メンバーのほとんどは岩村で長年暮らししている地域密着者です。地域住民はもちろんです、商店会など立場の異なる人たちといかにつながるかが課題でしたが、メンバーの個人的なつながりを頼りに商店会に働きかけ、いくつかの商店に協力をお願いできました。

●地元がつながった日

当日はカステラ、栗きんとん、お饅頭、柿、ゆずジュースなどの高級スイーツが町並みの中継ポイントに無料で並びました。みんなうれしそう。

途中、焼き栗のお店では店主の方に声をかけていただき、まさかの栗のプレゼント♪とびきりのスイーツマラソンを楽しみました。岩村エリアのゴール地点では日赤奉仕団の方々が豚汁を作ってお出迎え。地元の音楽家の伴奏で「ふるさと」大合唱。認知症をキーワードに大勢の人がつながることができたイベントでした。



2017.3.19  
えなRUN伴PLUS2016報告フォーラム  
認知症フレンドシップクラブ  
恵那事務局開設

みんなでつくる  
認知症まちづくりプロジェクト  
キックオフフォーラム

武並コミュニティセンター

- 【ゲスト】
- よつば義人氏 (認知症当事者・詩人)
  - 岡田誠氏 (株式会社富士通研究所)
  - 田中克明氏 (コクヨS&T株式会社)



田中さん(左)と岡田さん(右)

今回の報告フォーラムでは、認知症の当事者である、詩人のよつば義人さんの実体験と、企業の方の立場から、株式会社富士通研究所の岡田誠さん、コクヨS&T株式会社の田中克明さんをお招きして、実際の取り組みについてお話を聴きました。

グループワークでは、認知症当事者やその家族、企業の方、地域の方々などが参加をし、『認知症に優しいまちづくりとは?』自分たちで何ができるのかを、真剣になって一緒に考え、新たなまちづくりのヒントを再発見することができたフォーラムとなりました。

また、フォーラムスタート前には、地元飲食店チキンハウスさん提供のカレーライスでランチ交流会を行い、会場は和気あいあい

合同会社 おひさま 伊藤 潤

とした雰囲気でした。

今までの3年間、私たちは認知症を『ジブンゴト』して捉える視点を持ちながら、専門職同士の強いつながりを強みとして、RUN伴のイベントを中心に活動してまいりました。

そして、これからの展開としては、フォーラムなどを重ねていく中で、改めて認知症当事者の思いに寄り添い、耳を傾けていく、個別アプローチの視点に回帰し、当事者やその家族と共に、私たちの住む恵那で、認知症に優しいまちづくりを創造し、実現していくことを期待しているのであります。認知症は『ジブンゴト』。みんな一緒。みんな恵那の人。



2016.7.31  
認知症地域ネットワークフォーラム  
2016中部

武並コミュニティセンター

- 【ゲスト】
- 竹内 裕氏 (認知症当事者)
  - 小菅 もと子氏 (映画「折り梅」の原作者)



このフォーラムでは、認知症当事者の実体験を直接聞くこととなった。そのことで、一般市民や企業の人、認知症サポーターなどが、認知症をジブンゴトとして捉え、そこから認知症当事者やその家族と一緒に、なつて何ができるのかを考えた。そのことにより、当事者同士やその家族とのつながりから、新しい一歩を踏み出すきっかけとなるフォーラムであった。



えなRUN伴+(PLUS)2016  
つながってくださったすべてのみなさまへ

えなRUN伴PLUS2016パートナー企業

寄付

- 株式会社 永遠ホール
- 東海神栄電子工業 株式会社
- 株式会社 エナ重機
- 株式会社 シエント
- 有限会社 耕グループ くわのみ
- 社会福祉法人 敬愛会 シクラメン

- 恵那 銀の森
- カネ九商事 株式会社
- 株式会社 経友会 藤の里「結い」
- 介護ケアセンター まごころ
- 社会福祉法人 恵和会
- 有限会社 めぐみ介護サービス
- 株式会社 フロンティアの介護
- フクダライフテック中部株式会社

- 木曾路物産 株式会社
- 東邦パック株式会社
- 医療法人 さか整形外科
- 医療法人 社団岐友会 中部クリニック
- 医療法人 河上クリニック
- 訪問看護ステーション リアン
- 株式会社エムアンドシー デイサービスセンターもみじ

協力

- スターボックス コーヒージャパン 株式会社
- 合同会社 おひさま
- マリアージュ
- 株式会社 アミックスコム

すべてのつながりにありがとうございます

人はひとりでは生きていくことができません。どんなにお金持ちの人もそうでない人も、生まれた時から誰かとかかわっています。誰かとかかわりの中で、嬉しいことや怒れること、哀しいことや楽しいことを繰り返して生活をしています。できるだけ快適に暮らしたいし、楽しく人生を送りたいとだれもが思っているのではないのでしょうか。

RUN伴は、認知症という一見すると難しいテーマについて「認知症になっても安心して住み続けられるまちってだれが作るんだろう？」という問いを投げかけます。この問いを受け取った途端に「他人任せではできないかも」「自分たちで何かできることがあるのでは？」たくさんの人と対話が始まります。

協賛をいただいた事業所のみならず、Tシャツやポスターのデザイン会社、エントリーされなかったけれど

ども応援をしてくれた方々、お寺、飲食店、図書館、医療機関、土業の方たちも。認知症の人もそうでない人もつながっていききました。

そうしてつながりが呼び、恵那市や中津川市(蛭川・阿木)のいたるところで、市民企業・商店・医療福祉関係者・行政など、いろんな人が走り出しました。体感して、何かを気づいて私たちは元気になりました。いままで「できない」と思っていたことがやれちゃったります。わくわくした未来を想像することもできます。認知症カフェ、認知症サポーターの取り組みだけでなく、まちなかのサロンなどでもぜひ話題にしてください。みんなが思い描く素敵なまちを本当に作っちゃいましょう！

ご支援をお願いします

みなさまからいただいたご寄付は恵那の「認知症にやさしいまちづくり」を実現するためにえなRUN伴+(PLUS)の運営費として使わせていただきます。

寄付のお振り込み先  
ゆうちょ銀行 店番248 普通貯金3061279  
口座名義 恵那RUN伴+(PLUS)実行委員会

えなRUN伴PLUS2017のエリアマネージャーの募集

えなRUN伴PLUS実行委員会では今年度の開催にあたりエリアマネージャーを募集しております。恵那の人と人とのつながりを広げるこのイベントに関わってみたいと思われる方お持ちしております。私たち事務局はみなさんの「やりたい」を応援します！

詳しい  
活動内容は  
お問い合わせ  
ください

えなRUN伴+(PLUS)2016 実行委員長  
田口優一さんへのインタビュー

インタビュアー 永石 照子

【田口 優一さんプロフィール】

関エナ重機創業者であり、現在は代表取締役会長「重機作業を通じて地域、社会、職場、家庭を活性化し物心両面の幸せを追求する」を経営理念とし、平成28年7月には40周年を迎えた。平成26年の夏、ささゆりカフェへの参加をきっかけに、恵那の認知症になっても安心して暮らせるまちづくり活動を応援。平成28年のえなRUN伴+(PLUS)では、実行委員会メンバーから強い推薦があり、実行委員長を務める。



熱く心が燃えた時、  
そして母への思い

【永石】今回医療福祉関係者ではない、重機会社の会長にRUN伴実行委員長の依頼があった時、どう思われましたか？  
【田口さん】自分とは違いだったのですね。実行委員長など頼まれるとは思っていません。もよらなかつたので本当に驚きました。  
【永石】しばらく考えられていましたね。  
【田口さん】皆さんの前向きさなどを見ていて、高齢になってからのことは、自分も知らなくてはならないことであり、ずぶの素人の私でも一緒にやってみよう、き仕事だと思つたから。  
【永石】ありがとうございます。では実際に実行委員会に参加してみようとしたことはありましたか？  
【田口さん】専門用語が全然わからず、浦島太郎状態だった。話されていることが理解できなくて、劣等感にさいなまれた。

【永石】私たちが、通常話している言葉は、一般の方にはわからないことがあるんですか？  
【田口さん】達感・使命感・連帯感人間としての使命感・使命感・共存の教えを皆さんから学ぶことが出来た。  
【永石】RUN伴が終わった時に思われた事は？  
【田口さん】達成感・連帯感人間としての使命感・使命感・共存の教えを皆さんから学ぶことが出来た。  
【永石】RUN伴が終わって、しばらく経ちましたが、今はどう思われていますか？  
【田口さん】学べたことは、どんなことでも、高年齢になってからのことは、自分も知らなくてはならないことであり、ずぶの素人の私でも一緒にやってみよう、き仕事だと思つたから。

【田口さん】今はやはり大勢の人にこの体験を共有してほしい。人間としての幸福を感じてもらいたい。  
【永石】次回のRUN伴実行委員会に協力して頂きますか？  
【田口さん】地域の人達をより多く巻き込んでいくお手伝いをしていくつもり。RUN伴は大きな行事になっていくだろう。最初は場違いだと感じ劣等感さえ感じたが、自分かこれまでしてきた色々な勉強や企業経営は、皆さんの目指すものと一緒なんだと感ぜられるようになっていった。そのことを伝えていきたいと思う。  
【永石】次回RUN伴のイメージやこんなことを伝えたいと思つていますか？  
【田口さん】お袋は100歳。介護が必要と

なった時、私は何の知識もないことに気がついた。そんなとき実行委員長の話があった。お袋は人の為に生きてきた人だから、自分もお袋のように生きてみようと思っていたし、企業経営を拡大してきて、創業40周年を迎え、せがれと代わる時期に来ていたので時間もとることが出来た。自分が仕事以外の事で燃えることが出来たのが不思議。  
【永石】最後にまとめて頂けますか？  
【田口さん】RUN伴のおかげで親孝行をすることができた。お袋の百年史のインタビューを受けて、話しているうちに『お袋はすごい人だった』と思いつくことができた。101歳を迎えてほしいと思つている。RUN伴に携わること、一生懸命見てやりたいと思つようになった。RUN伴に感謝。  
【永石】よいお話を聞かせていただいてありがとうございます。

田口優一さんは、私が介護職になる前からの顔見知りの方です。ある時「勉強になる講演があるけど参加してみないか」と誘って頂いたことがご縁で、生き方を考えられる講演に今も誘って頂いています。田口さんには高齢のお母様がいらっしゃることも、二十一世紀クラブ、やまびこ塾など多くの社会活動に参加されていることから、2015年のRUN伴へお誘いしましたところ、快く参加して頂きました。そして、2016年は実行委員長としてご活躍頂きました。田口さんのお母様の百年史を作成させて頂いたご縁から、今回もお話を聞かせて頂きました。

インタビューは、ICレコーダーを使用しました。再生してみると、最初の部分は緊張が伝わってきます。お母様の百年史のインタビューの時も同様でした。最初はお母様の歴史を一通り話していただきましたが、話しをされているうちにお母様の「優しさ」「強さ」「大切な家訓」「おもいやり」を止めどなく話され、そして、最後に『お袋はすごい人だった』と何度も繰り返されていたことがとても印象的でした。今回のインタビューも最後のまとめは、やはりお母様への思いを語られています。その声のトーンは穏やかで暖かさを感じました。

思い出を整理し、言葉にすることは、大切な人をさらに身近に感じさせます。今回貴重な経験をさせて頂き有難うございました。



カフェに来られたみなさんのメッセージ

「介護がいつまで続くか考えると苦しいが、心がほんとは楽になりました。」

「ピアノと歌声に清められた。また頑張ろうと思う。親孝行できることに感謝。」

「プロの方々に色々教わり、本当に助かった。介護者も勉強することが大切。心をわって話せることが一番。」

「友に誘われてここまで来れて本当によかった。一言で心が洗われた。」

「家族の方の笑顔が見えて嬉しかった。」

「コーヒーを飲みながら色々な人と意見交換することができ、とても有意義な時間でした。」

恵那市の認知症カフェ事業の取り組みを全国に発信...

【フォーラム認知症カフェを考える2014】平成26年11月9日(東京都)  
主催:朝日新聞社 朝日新聞厚生文化事業団 社会デザイン研究所  
2014年11月9日に朝日新聞社主催のフォーラムに、行政が主体として実施しているカフェの取組みとして発表しました。(東京都豊島区池袋 立教大学にて)

【月刊:地域リハビリテーション10巻9号 三輪書店】平成27年9月  
特集 認知症者の社会参加

【認知症カフェ開設講座】平成27年12月(岡山県) 平成28年10月(広島県) 平成29年6月(山梨県)  
主催:朝日新聞厚生文化事業団

朝日新聞厚生文化事業団は、各地にたくさんの認知症カフェが誕生することを願い、助成金をおとして応援しています。初めてカフェを開設する方向けに全国を巡回しながら講座を開催しており、恵那市の取組みは講座をおとして全国に発信されています。

【ようこそ、認知症カフェへ〜未来をつくる地域包括ケアのかたち〜】  
筆者 武地一 ミネルヴァ書房 平成29年4月26日発行  
カフェの実践報告として恵那市の取組みを執筆しました



ささゆりカフェは、認知症の方や家族の方が気軽にお越しいただけるように様々なところで開催しています。



出会い、つながり、相談できる場所。

**ご本人が**  
自分のペースで過ごせる、役割がある、仲間がいる、地域とのつながりを感じる

**ご家族が**  
家族同士での情報交換、交流 認知症の情報を得る。相談できる ご本人と一緒に参加できる

**地域住民が**  
認知症の正しい理解、情報を得る 認知症サポーター等の活動の機会

**専門職が**  
利用者ではなく仲間として交流 新たな側面に気付けることも

恵那市の認知症カフェ(ささゆりカフェ)は行政、病院、介護事業所の医療福祉の専門職とスターバックスコーヒー恵那峡サービスエリア(下り線)店と共同運営。スタッフが専門職のため個別相談もできます。お気軽にお越しください。詳しくはお問い合わせください。



専門店が入れる香り高いコーヒーを飲みながら、楽しいひとときを...

お問い合わせ 恵那市役所 地域包括支援センター  
TEL 0573-26-2111(内線172)

恵那市では気軽に集う場所  
認知症カフェ(ささゆりカフェ)を開催しています!

認知症になっても、「これまでのように出かけられる」「自分のやりたいことができる」「今までと変わらない暮らしができる」  
認知症カフェの開催を通して、支援者のネットワークを広げ、  
認知症フレンドリーなスポットを増やしたい  
そんな誰にもやさしい恵那を目指して...

認知症カフェって何?

厚生労働省は、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを関係府省庁と共同で進めています。その施策を新オレンジプランと言います。認知症カフェは、その施策の一環として国がすべての市町村に設置を推進しているものです。



上矢作町・圓頂寺にて



大井町・マリアージュ(結婚式場)にて



認知症フレンドリー社会へのチャレンジ——② メモリアグループさん

「なぜお葬式をするのでしょうか？」  
地球上では私達『人間』だけが亡くなった存在を弔うといわれています。故人の今までの人生に、そして関わりに『感謝』を伝える、それがお葬式の本当の意味だと私達は考え、事業を展開しています。

お葬式とは儀式の種類の中の一つです。日本には様々な『儀式』という大切な節目が昔から存在しています。例えば、成人式、結婚式、入学式、卒業式等々。お葬式以外の儀式の意味は説明を必要としないくらい皆様よくご存知ではないでしょうか。

私達がお葬式を行ううえで大切にしていることは、故人の生前の人生の中で発生した人との『つながり』。つまり『ご縁』。それは地域との関わりを意味します。

今回えなRUN伴+(PLUS)へ企業として参加しようと思ったきっかけも『つながり』が始まりでした。

葬儀社という業種柄もあり、地域の輪の中へ飛び込むということが積極的にできずにいましたが『つながり』を大切にしたいという事に関しての想いは同じでした。

『つながり』を大切にすると、何か困ったとき、何か不安に思った時に近くにいられる存在でありたいと

「あ、30年ぶりだね！」  
「やだ、まさかここで会えるなんて！」

途切れていた『つながり』を再び結び、これからの人生の新たな『つながり』を見いだしていただくことが嬉しくもあり、「イベントをやっていたよかったです」に繋がっています。

私達の活動で実際にあったことですが、弊社の開催するイベントでは、お客様同士の会話からこんな声をよく聞きます。

「恵那市で認知症になっても安心して暮らせるまちづくりをしよう！」と地元の関係者の皆さんが地域のこと、地域に住んでいる人たちのことを『ジブンゴト』として一生懸命考えて、自ら集まり意見を出し合い、行動を起こされたことに対し、私たちスターバックスも、例えば「ささゆりカフェ」のミーティングやカフェの活動に定期的に参加し、認知症の方やご家族の方たちとコーヒーを通じて『つながり』を深めてきました。

「えなRUN伴+(PLUS)2016」では認知症関連の活動以外のコミュニケーションで交流のある方たちもいらつしやり、共通の目的意識の中で、イベントを成功させることができました。

企業として考える認知症フレンドリー社会に向けて

今後の私達のチャレンジとして、今までの『つながり』を築く活動をより広げて行くことを考えています。具体的には、まずは今回のえなRUN伴+(PLUS)に参加して痛感した圧倒的に不足している認知症への理解。社内教育の一貫としてスタッフの認知症キャラバン受講。そして、地域貢献を兼ねた、ささゆりカフェへの出店や紹介を通じ地域の輪の中へ入り込み、私達が専門として寄り添う

「人一人で生きられず、必ずどこかのコミュニケーション、いわば人との『つながり』の中で生活をしています。その『つながり』を大切に、そして誰もが不安のない生活が送れるように、地域の一員として、皆様に安心を届けることが、地域社会への貢献だと思います。」

今年のエナRUN伴+(PLUS)では、昨年以上に社内外問わず『つながり』を頂いた皆様に巻き込んでいきたいと思えます。

「恵那市で認知症になっても安心して暮らせるまちづくりをしよう！」と地元の関係者の皆さんが地域のこと、地域に住んでいる人たちのことを『ジブンゴト』として一生懸命考えて、自ら集まり意見を出し合い、行動を起こされたことに対し、私たちスターバックスも、例えば「ささゆりカフェ」のミーティングやカフェの活動に定期的に参加し、認知症の方やご家族の方たちとコーヒーを通じて『つながり』を深めてきました。

「えなRUN伴+(PLUS)2016」では認知症関連の活動以外のコミュニケーションで交流のある方たちもいらつしやり、共通の目的意識の中で、イベントを成功させることができました。

「えなRUN伴+(PLUS)2016」では認知症関連の活動以外のコミュニケーションで交流のある方たちもいらつしやり、共通の目的意識の中で、イベントを成功させることができました。



■メモリアグループ  
岐阜県大垣市小野 3-47-1  
株式会社 永遠ホール 恵那葬儀  
恵那営業課 法人営業係  
戸田 瑞穂さん

認知症フレンドリー社会へのチャレンジ——① スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社さん

「認知症になってもみんなが安心して暮らしていける」といいます。お二人の言葉に、この日から恵那市の一員としての関わりが本格的にスタートしました。

スターバックスでは、私たちが地域社会に果たせる役割を3つの柱で実行しています。そのひとつが、今回私が積極的にまちと関わるきっかけになった『コミュニティへの貢献』です。

一民間企業であっても、自分たちの利益を追求するだけでなく、地域社会や地域の方々と共に歩んでいく、そんな意味を込めた柱です。

RUN伴もその想いをもって参加させて

「認知症になってもみんなが安心して暮らしていける」といいます。お二人の言葉に、この日から恵那市の一員としての関わりが本格的にスタートしました。

スターバックスでは、私たちが地域社会に果たせる役割を3つの柱で実行しています。そのひとつが、今回私が積極的にまちと関わるきっかけになった『コミュニティへの貢献』です。

一民間企業であっても、自分たちの利益を追求するだけでなく、地域社会や地域の方々と共に歩んでいく、そんな意味を込めた柱です。

RUN伴もその想いをもって参加させて

「認知症になってもみんなが安心して暮らしていける」といいます。お二人の言葉に、この日から恵那市の一員としての関わりが本格的にスタートしました。

スターバックスでは、私たちが地域社会に果たせる役割を3つの柱で実行しています。そのひとつが、今回私が積極的にまちと関わるきっかけになった『コミュニティへの貢献』です。

一民間企業であっても、自分たちの利益を追求するだけでなく、地域社会や地域の方々と共に歩んでいく、そんな意味を込めた柱です。

RUN伴もその想いをもって参加させて



「認知症になってもみんなが安心して暮らしていける」といいます。お二人の言葉に、この日から恵那市の一員としての関わりが本格的にスタートしました。

スターバックスでは、私たちが地域社会に果たせる役割を3つの柱で実行しています。そのひとつが、今回私が積極的にまちと関わるきっかけになった『コミュニティへの貢献』です。

一民間企業であっても、自分たちの利益を追求するだけでなく、地域社会や地域の方々と共に歩んでいく、そんな意味を込めた柱です。

RUN伴もその想いをもって参加させて

「認知症になってもみんなが安心して暮らしていける」といいます。お二人の言葉に、この日から恵那市の一員としての関わりが本格的にスタートしました。

スターバックスでは、私たちが地域社会に果たせる役割を3つの柱で実行しています。そのひとつが、今回私が積極的にまちと関わるきっかけになった『コミュニティへの貢献』です。

一民間企業であっても、自分たちの利益を追求するだけでなく、地域社会や地域の方々と共に歩んでいく、そんな意味を込めた柱です。

RUN伴もその想いをもって参加させて

「認知症になってもみんなが安心して暮らしていける」といいます。お二人の言葉に、この日から恵那市の一員としての関わりが本格的にスタートしました。

スターバックスでは、私たちが地域社会に果たせる役割を3つの柱で実行しています。そのひとつが、今回私が積極的にまちと関わるきっかけになった『コミュニティへの貢献』です。

一民間企業であっても、自分たちの利益を追求するだけでなく、地域社会や地域の方々と共に歩んでいく、そんな意味を込めた柱です。

RUN伴もその想いをもって参加させて

「認知症になってもみんなが安心して暮らしていける」といいます。お二人の言葉に、この日から恵那市の一員としての関わりが本格的にスタートしました。

スターバックスでは、私たちが地域社会に果たせる役割を3つの柱で実行しています。そのひとつが、今回私が積極的にまちと関わるきっかけになった『コミュニティへの貢献』です。

一民間企業であっても、自分たちの利益を追求するだけでなく、地域社会や地域の方々と共に歩んでいく、そんな意味を込めた柱です。

RUN伴もその想いをもって参加させて

「認知症になってもみんなが安心して暮らしていける」といいます。お二人の言葉に、この日から恵那市の一員としての関わりが本格的にスタートしました。

スターバックスでは、私たちが地域社会に果たせる役割を3つの柱で実行しています。そのひとつが、今回私が積極的にまちと関わるきっかけになった『コミュニティへの貢献』です。

一民間企業であっても、自分たちの利益を追求するだけでなく、地域社会や地域の方々と共に歩んでいく、そんな意味を込めた柱です。

RUN伴もその想いをもって参加させて

「認知症になってもみんなが安心して暮らしていける」といいます。お二人の言葉に、この日から恵那市の一員としての関わりが本格的にスタートしました。

スターバックスでは、私たちが地域社会に果たせる役割を3つの柱で実行しています。そのひとつが、今回私が積極的にまちと関わるきっかけになった『コミュニティへの貢献』です。

一民間企業であっても、自分たちの利益を追求するだけでなく、地域社会や地域の方々と共に歩んでいく、そんな意味を込めた柱です。

RUN伴もその想いをもって参加させて

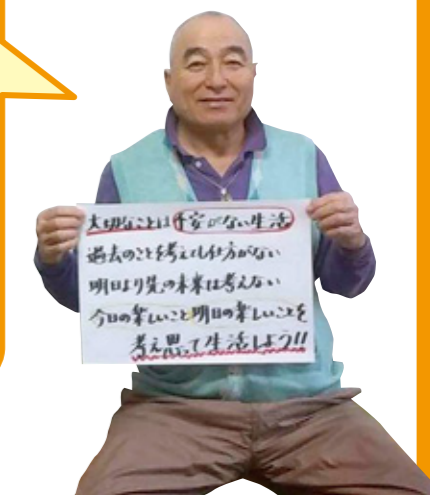


現 恵那峡サービスエリア(下り線)店  
ストアマネージャー 澤田 昌治さん





認知症地域ネットワークフォーラム2016中部  
2016.7.31ゲスト  
竹内 裕さん（認知症当事者）



認知症になられた方だけでなく、病気等々の方も色々悩んだり、苦しんだりしておられる方に、僕自身が悩み、遠回りしてきたので何かしらひとつでも良い方向に向かって頂けたらと思います。  
社会とつながってほしい！認知症になってもサポートがあれば長く働ける！出来れば働きたい！働きたくても働けない辛さをわかってもらいたい！認知症の病気の方々に対して深く真剣に取り組む社会の実現を願っています



名古屋市認知症相談支援センター  
鬼頭史樹さん

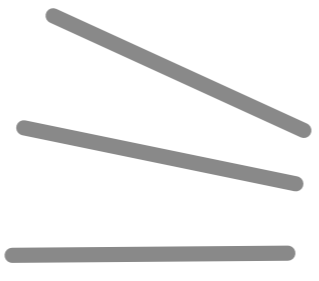
恵那のみなさん、こんにちは！名古屋市社会福祉協議会の鬼頭と申します。えなRUN伴+(PLUS)記念誌の発行、認知症フレンドシップクラブ恵那事務局の立ち上げ、おめでとうございます！恵那のみなさんとは以前から交流や情報交換をさせていただいて、そのアイデアや素晴らしい活動にいつも刺激をもらっています。特にえなRUN伴+(PLUS)は、多くの市民の方が参加され、一大イベントになっているとのこと、本当にすごい！恵那と名古屋は少し離れてはいますが、同じ目標をもつてがんばっている仲間がいることがうれしいです。これからもいっしょに「認知症になっても安心な社会」を目指していきましょう。よろしくお願いします！

恵那の活動は認知症フレンドシップクラブのメンバーから聞いていました。斬新というかアグレッシブに取り組みされているんだというのが最初のイメージでした。実際に呼んで頂いて、会場に入った時、イメージ通りの熱気で、認知症の人の思いや声を大事にするぞ！というオーラを感じました。恵那の活動は、全国にも良い影響を与えていると思います。あせらず、地道に、世代を超えた時間の中で、よりよい認知症の人の暮らしやまちに、その先に、すべての住民が暮らしやすいまちななることを期待しています。僕も奈良で頑張りますので、一緒にいっしょにまちにしていきたいと思います！

えなRUN伴+(PLUS)2015大報告会 2016.3.19 ゲスト  
一般社団法人SPSラボ 若年認知症サポートセンター きずなや代表理事 若野達也さん

# 応援メッセージ

全国のRUN伴でおなじみのみなさんから  
熱いメッセージをいただきました。  
認知症フレンドリーなまちづくりを目指して  
一歩一歩取り組んでいきましょう！



認知症地域ネットワークフォーラム2016中部 2016.7.31ゲスト  
作家 小菅もと子さん（「忘れても、しあわせ」著者、映画「折り梅」の原作者）

富士宮市と恵那市の出会いは、認知症フレンドシップクラブの徳田さんの紹介がきっかけでした。でも、不思議なことに、両者の関係を深めたのは、富士宮市のグループホームに入居していた恵那市出身の夏目佳明さんでした。  
私は恵那市のみなさんと会うといつも新鮮な気持ちになります。  
どうしてだろう？恵那市のみなさんを見てみると、誰がリーダーなのか分からない。みんな個性的で仲がよい、みんなが主役でうまく調和がとれていて、会うたびに新しい何か起きてくるように感じる。  
全ての個性が尊重される。これこそが、認知症になっても暮らしやすい社会ではないだろうか？と気付かされる。そんな恵那市から教わることは多いし、本当に興味深い大好きな地域です。これからも恵那市と富士宮市、励ましあいながらがんばりましょう！仲良くしてくださいねー！



富士宮市役所 稲垣康次さん

今、世界的に認知症の人が増える中で、医療や介護だけではなく、生活に関する産業や商店、学校や図書館といった福祉以外の公共セクター、地域住民や趣味グループなど、暮らしを形づくる全てのセクターでまちをつくるということが必要という認識が高まっています。ここ数年、恵那で生まれつつあるのは、多様な人たちがつながり、認知症の人や家族が抱える生活の課題に耳を傾けようという機運ではないかと思っています。可哀想な人がいるから助けてあげるといふ発想から脱却し、自分が認知症になった時に、どのような人との関わりをできる地域であればいいのか、現在の認知症の人と一緒に生きて、一人一人の皆さんが考えるような流れが出てきているのではないかと思います。いま、世界中の地域で同じ課題意識をもち、様々なチャレンジが生まれつつありますが、恵那の取り組みは、間違いなくその中で、力強い取り組みのひとつだと思います。恵那の人による、恵那をどうしていくのかと考えるチャレンジは、恵那のためだけでなく、日本のためだけでなく、世界の他の町のためにもなるはずですよ。これからの恵那の取り組みの深まりと広がりを楽しみにしています！

RUN伴2014大報告会 2014.12.13 ゲスト  
えなRUN伴+(PLUS)2015大報告会 2016.3.19 ゲスト  
NPO法人認知症フレンドシップクラブ理事 徳田雄人さん

